

平成 30 年度学位記授与式 学長式辞（平成 31 年 3 月 18 日）

今年は例年に比べて春の訪れが遅いようですが、その足音は着実に近づいています。本学の桜の木もたくさんのつぼみをつけ、花開くときを、今や遅しと待ち構えているようです。こうして今年も、新たな旅立ちの日を迎えることになりました。

各学部の 4 年次生、研究科 2 年次生の皆様、本日は、ご卒業、誠におめでとうございます。ご父母の皆様におかれましては、御子息、御令嬢のご卒業を心よりお慶び申し上げます。これまで長い間お子様の成長を見守られ、楽しみにされてこられたことと存じますが、本日の立派なお姿をご覧になって、そのお慶びはひとしおのことと拝察申し上げます。また、本日は、多数の御来賓の皆様にご来臨賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて本日、学士課程 705 名、修士課程 12 名の平成最後の学位記授与式において、皆様の門出にあたり、一言、お祝いの言葉を贈りたいと思います。

皆様は、本日を期して長い学生生活を終え、いよいよ社会人として第一歩を踏み出すわけですが、今日の社会は少子高齢化に伴う労働力人口の減少とそれに対応するための多様な人材確保の問題が深刻化し、ロボット技術や IT、IoT 技術などの発達により産業構造、就労環境が大きく変化しています。

そのような状況において、皆様はこれから、文化的背景が異なったり、さまざまな価値観をもつ人々とともに働き、生活していくこととなります。急速な科学技術の発達や社会環境の変化により、必要とされる能力も大きく変わらざるを得ないでしょう。新しい技術に使われるのではなく、これを使いこなし、新たな価値を生み出す能力が必要となります。そうした社会では、たんに与えられた仕事をこなすだけではなく、自らが置かれた立場、状況をしっかりと認識し、自らの力によって課題を乗り越えていかなければなりません。そのためには、変化する社会の現実を的確に捉え、解決すべき課題を明確にし、解決のための方策を自分の頭で考え、関係する人たちと協力しながら、目指すべき目標を実現する能力が必要です。

駿河台大学では、このような社会人として活躍するために必要な能力を「駿大社会人基礎力」と位置付け、すべての授業でこの力の修得を目指しています。卒業される皆様は、それぞれ身に付けた社会人基礎力を十分に活かして、これからの社会を逞しく生きて行かれることと確信しております。

こうした難しい社会状況に加えて、現在の日本は大きな問題を抱えています。とくに重大な課題は、社会の根本である「信頼」が揺らいでいることです。国レベルでは、国の基本となるべき統計で不正が行われました。一流企業といわれる会社では不当な取引や不正な品質操作などが行われましたし、いくつかの大学では入学試験での不合理な取り扱いがありました。

かつての日本は勤勉、真面目が美德とされてきましたが、現在はこれらの価値観が崩れつつあります。いくら経済力の回復を実現しても、これでは砂上の楼閣になりかねません。い

ま私たちが取り組むべきは、あらゆる分野での「信頼の回復」であります。私の専攻する民法—この法律は私的生活関係の基本となる法律ですが—これには、その第一条第二項で「権利の行使及び義務の履行は、信義に従い誠実に行わなければならない。」という条文があります。これは「信義誠実の原則」といわれるものですが、その意味するところは、「相手方の信頼を裏切ってはならない。」ということです。いわば社会で最も守られなければならないルールが民法の最初に書かれているのです。

信頼というものは、築くのが難しく、時間がかかるものですが、それが崩れるのは一瞬のことです。ほんのわずかな行為や言葉で、あっという間に失われてしまいます。

どうか皆様におかれましては、相手の信頼を裏切ることのないように、相手の方を尊重し、自分に悔いのないように生きてください。私から皆様に贈る「信義誠実」という言葉をしっかりと心に刻んでおいてください。

最後に、私の私的なこととお話しさせていただきます。私も、皆様と同じく、今年度をもって駿河台大学を「卒業」することになりました。25年間、学生の皆様とは、授業や課外活動で楽しく過ごしてきました。教職員や理事の皆様の支えによって、大学人として充実した生活を送ることができました。地域の皆様には、キャンパス内では経験できないような様々な出会いをいただきました。ありがとうございました。私自身、ここで駿河台大学を離れるのは、たいへん名残惜しいのですが、今後は卒業生の皆様とともに、駿河台大学を外から見守り応援していきたいと思っています。

卒業生の皆様の輝かしい未来を期待し、駿河台大学のますますの発展と充実を願って卒業式の式辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

平成 31 年 3 月 18 日

駿河台大学 学長 吉田恒雄